

II テサロニケ2章からの2つのこと

アシェル・イントレーター 2012年12月3日

IIテサロニケ2章(1節と8節)で、イエシュア(イエスさま)の再臨について2回言及されています。「再臨の日」が「主の日」(2節)や「その日」(3節)と表現されています。この「主の日」という表現は、他の預言書に登場する「YHVHの日」に相当するものです。

イエシュアが来られる時起こることのなかに「携挙」と呼ばれるものがありますが、ここでは「わたしたちが主のみもとに集められること」と位置付けたいと思います。

IIテサロニケ2:1 私たちの主イエス・キリストが再び来られることと、私たちが主のみもとに集められることに関して...

イエシュアの再臨と携挙は同じ日に起こります。その日に起こるもうひとつのことが、「不法の人、すなわち滅びの子」(3節)そして「不法の人」(8節)と呼ばれている、反キリストの破滅です。

IIテサロニケ2:8 不法の人...主は御口の息をもって彼を殺し、来臨の輝きをもって滅ぼしてしまわれます。

再臨に関するこれら2つの記述から、わたしたちはイエシュアと(訳注:ひとつとなるべく)携挙され(1節)、反キリストが殺されること(8節)が分かります。わたしたちが主と携挙されるその同じ時に、反キリストを滅ぼされるのです。その前ではないのです。

反キリストが滅ぼされると同時にわたしたちの携挙があるのであれば、携挙は大患難時代の前あるいは大患難時代の最中に起こるのではないのです。イエシュアは再臨される時に反キリストを滅ぼし、それにより大患難時代に終止符が打たれます。その時にわたしたちも主のみもとに集められるのです。

ここで重要なのは、終わりの時の年代学についての神学を論じるのではなく、終わりの時の困難に対し勝利し続けていく、メシア(キリスト)のからだに備えられていくか否かという実践的な問題なのです。もし大患難時代には、わたしたちはここにいないと教えられたのならば、わたしたちは備えられることはありません。この間違いの悪影響についてパウロは、終わりの時の主要な「欺き」のひとつであると述べています。

IIテサロニケ2:3 だれにも、どのようにも、だまされないようにしなさい。なぜなら、まず背教が起こり、不法の人...が現われなければ、主の日は来ないからです。

「背教」および「不法の人(反キリスト)が現れること」は大患難時代における主な出来事です。パウロは、携挙がこれらに先だって起こると考えることは、危険な欺きだと述べています。わたしたちは

霊的な闘いに備える必要があるのです。それはつまり神の御言葉の真理に立ち、試練と患難のただ中であって勝利していくことなのです。

11月29日

ヨエル・イエルスキー

11月29日木曜日にエルサレムの中心で約150人のユースと青年が祈りとワーシップと執り成しに集中するため集まりました。アシェル・イントレーターが、エルサレムとイエシュアの主の都への帰還に関する、簡潔ながらも魂を揺さぶるようなメッセージを行ないました。

2人の若くて賜物に恵まれたリーダー、ダヴィドとハイムがワーシップと祈りの時に導きました。

11月29日は、イスラエルの人々にとって歴史的に重要な日なのです---1947年のその日、国連の投票により合法的な国家として認められました。65年後のこの日国連はパレスティナを合法的他国家として承認する日として選んだのは偶然ではありません。同時に神は、今日発生しているこの霊的闘いに対し、ワーシップと執り成しを解放する存在として、わたしたちを用いて下さったのです。

この夕べの計画中に、わたしたちはこのイベントを29日に延期せざるを得ませんでした。その日の重大性に気付かずに。またわたしたちはマタイ23章とエルサレムに焦点を当てるよう、強く示されていると感じました。いちばんよかったのは、西岸地区とガザにリバイバルと、神さまが主の霊を注いで下さるよう祈ったことでした。敵はひとつのことを企んでいます、神はより良いプランを考えておられます。わたしたちは、今日、天を動かし、神の心に触れることができたことと信じています。

驚くべき国連の反応

驚くべきは...

先日の国連投票に対してイスラエルにおける反応が少ないこと。

パレスティナ人の祝賀祭に出席者が少ないこと。

アッバス大統領が、国家指導者にふさわしい和平を推し進める発言ではなく、イスラエルに対する悪意と欺瞞に満ちた攻撃的な内容を選んだこと。

そのような悪意に満ちたプロパガンダの後、国連で、スタンディング・オベーションを受けたこと。

イスラエル代表プロソルはそのような平静とした実務的な返答をしたこと。

今一度イスラエルのみが、国連総会の前で聖書的価値観および歴史的事実について言及したこと。

驚愕のサイバー戦略

8日間のイスラエルとガザの対立において、イスラエル政府のウェブサイトに対し4千4百万件のハッキングが報告されました(コーエン/アイヒナー、Y-Net)。

エルサレム司法研究所

弁護士カレブ・マイヤーズ

パレスティナ当局への海外献金の悪用に関する4分間のビデオは、一見の価値があります。こちらを[クリック](#)ください。(英語での動画)

新しい英国国教会の大主教のための祈り

キャメロン・コリントン教区牧師

次期カンタベリー大主教、ジャスティン・ウェルビー大主教のため私たち英国での祈りにご参加ください。彼の地位は、彼が英国国教会の指導者というだけでなく、世界8千万人の国教会会員の霊的指導者でもあることにより、重要なものとなっています。彼はこの新しい職務に赴任するにあたり、知恵が与えられるよう祈るよう要請しています。女性主教や同性愛者の結婚といった件に関する反対により、国教会の一致が危ぶまれています。

ウェルビーは主を愛し、聖書の真理と聖霊の力に基づいた方です。興味深いことに、彼の父親(故人)がユダヤ人であったことが明らかになりました。このことは若い時分のウェルビーには成長するまで伏せられていましたが、神さまがこのことを、彼に世界のリバイバルにとっての、イスラエルの重要性を明らかにするため用いられ、そして教会にとっては、この新しい大主教が、アブラハム、イサク、ヤコブの神の違うことのない契約の愛をより深く理解していくための導き手となるよう、わたしたちは祈ります。